

(様式1)

自己評価表

愛媛県立大洲高等学校 肱川分校

学校番号 30

教育方針	1 国家社会の有為な形成者としての資質を養うために知性を高め、心身ともに健康で豊かな人間性と創造力を備えた人間を育成する。 2 生徒の興味・関心・能力に応じた進路実現を目指し、社会の変化に主体的に対応し、貢献できる人材を育成する。	重点目標	1 基礎・基本を重視した丁寧な授業を推進し、すべての生徒が活躍できる場を創出することで、生徒の生きる力を育む。 2 学校行事などの感動体験によって自己有用感を高め、思いやりと豊かな心を持つ生徒の育成を目指す。
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	授業等の充実	・授業内容の精選を図り、個に応じた分かりやすい授業を行う。 生徒アンケートの授業に関する7項目について、そう思う・ややそう思うと回答する生徒の割合を高める。 A:90%以上 B:80%以上 C:60%以上 D:40%以上 E:40%未満	A	・生徒の評価の平均は99.6%だった。ティームティーチング、実習助手の適切な配置により、支援を要する生徒をはじめ個に応じた授業を試みることができた。	・基礎・基本が定着していない生徒が多いため、学び直しの時間を設けるといった工夫を継続しながら、卒業後の進路を視野に入れ、新しい知識が習得できるよう授業研究を行う。
		・能力・適性に応じた個別指導を行い、学習意欲を高め、好きな教科を増やし、生徒アンケートの「この科目が好きですか」の項目について、そう思う・ややそう思うと回答する生徒の割合を高める。 A:90%以上 B:80%以上 C:60%以上 D:40%以上 E:40%未満	A	・アンケート結果は、91.95%を達成できた。中学校からの苦手意識が残っている教科もあり、丁寧な個別指導を続けていきたい。	・一人1台端末を利用した学習方法を研究する。また、授業評価アンケートの結果を踏まえ、生徒の意欲を向上させる工夫を行う。
	生徒の出席率の向上	・出席率の向上を図る。校務支援システムの生徒出席調査表における出席率について、A:90%以上 B:70%以上 C:60%以上 D:50%以上 E:50%未満	B	・校務支援システムの生徒出席調査表によると、出席率は73.5%であった。長期休業を含む休み明けに欠席が続く生徒が多くなっている。	・家庭との連携をさらに深め、生活習慣の見直しを図る地道な努力を継続していく。
	「総合的な探究の時間」	・達成感を味わえるような内容を検討し、活動報告の場を設けるなど創意工夫する。	A	特色を生かした内容を各講座で展開しており、生徒も意欲的に活動ができていた。秋の茶会においては、学校全体で来客に対してもてなしを行うことができた。また、BBQソースコンテストで優秀賞やプレゼン賞を受賞した。	今後も、生徒が他者と協力して主体的に活動することで、問題解決能力が身に付くよう活動内容の改善に努める。
生徒指導	個人面接の充実	年間6回以上の個人面接を行う。 A:6回以上 B:5回 C:4回 D:3回 E:2回以下	B	一人平均年間5回の個人面接を実施した。問題を抱える生徒に対して、管理職との相談の下、個別面談や家庭訪問を定期的に行い、問題解決を目指した。	問題や悩みを抱える生徒の心情を理解できるよう努め、生徒の気持ちに寄り添いながら、家庭との連携を図っていく。
	身だしなみ指導の充実	・好ましい服装態度の定着を図り、違反件数の減少を目指す。 A:10件未満 B:15件未満 C:20件未満 D:25件未満 E:25件以上	C	毎月実施している身だしなみ指導の違反件数は17件であったが、軽微なものが多く、指導後すぐに改善が見られた。	日頃から正しい身だしなみを心掛けられるよう指導を継続し、年間違反件数10件以下を目指す。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	交通安全指導の充実	・原付通学生を対象に交通安全講習会を実施し、交通事故0を目指す。	A	原付通学生は大洲自動車教習所にて交通安全講習会を受講した。今年度も交通事故件数は0件であった。	来年度以降も引き続き交通安全講習会を実施し、交通安全意識を高められるよう指導していく。
	悩み相談	・生徒とのコミュニケーションを大切に、気軽に悩みを相談できる関係を構築する。	B	日頃から生徒への声掛けや親身になって相談に乗るなど、生徒たちと良い関係性を保つことができています。	日頃から生徒の様子をよく観察し、担任とも連携を取りながら指導にあたり、教員間でも情報の共有を図る。
進路指導	進路指導の充実	・校内就職模試における各教科の平均点が、A:70%以上、B:69～60%、C:59～50%、D:49～40%、E:40%未満の数値を設け、Bランク以上の実現を目指す。	B	・校内就職模試の各教科の平均点は、それぞれ70%、56%、46%で合計点の平均は60%で目標であったBランク以上の結果を出すことができた。	・出題科目の内容や程度について教科主任を中心に教職員全員で連携を取り、生徒の学習段階に対応した指導を目指す。
	将来の進路や生き方	・アルバイトなど職業実践期間中のさまざまな経験を踏まえながら職業に対する理解を深め、卒業時点での進学・就職内定率100%実現を目指す。	A	アルバイトを通じて職業に対する理解を深めながら、職業実践期間中には資格取得、入試対策を行った結果、四年制大学への進学を決定することができた。	・進路ガイダンスや職場見学などの機会を活用しながら、在学中の進路先選定に向け取り組む。
特別活動	部活動の充実	・県定通制総体で上位入賞を目指す。 A:複数種目優勝、B:1種目優勝、C:2種目以上入賞、D:1種目入賞、E:入賞なし。	A	1種目準優勝、1種目ベスト8進出を果たすことができた。バドミントン部が県予選を勝ち抜き2名の生徒が全国体育大会出場を果たした。	日頃の練習時間は多くないが、練習内容を充実させ、全国体育大会出場や定通制県総体での入賞を目指す。
	学校行事の充実	・学校行事に積極的に参加すること。また、行事の成功を目指し、生徒が互いに協力し合う態度を育てる。	B	少人数ながら、工夫を凝らして各行事を成功させた。感染対策を講じて、昨年度よりも多くの行事を実施することができた。	少人数の学校である特徴を生かし、生徒一人一人に活躍の場を設けられるよう工夫し、生徒の自己有用感を高めさせる。
安全管理	緊急時の対応	・防災訓練・避難訓練・シェイクアウトえひめ等を通して、緊急時に適切な判断をし、行動できる力を育てる。	B	緊急時に、災害に対して各自どのように動けばよいかを判断し対応できるよう年間3回の避難訓練と救命講習会1回を行った。	様々な状況を想定し、災害に対しどのように対応し行動すればよいか、いろいろな立場で訓練を行う。
保健管理	保健管理	・各種検査や健康診断等の結果を基に、家庭と連携し健康の保持増進を図る。	B	各種検査等は、年間を通じほぼ予定通り実施でき、検査結果は確実に保護者にも連絡し早期治療を促した。	各種検査の実施にあたっては、学校行事とともに本校の実施時期も考慮して計画していきたい。
		・生徒が、安心して楽しい学校生活を送れる、居場所づくりを目指す。	A	長期休業中も含め、健康観察管理簿を記入し、各自健康管理に努めるよう働きかけた。	長引くコロナ禍における感染予防対策として、適切な空調設備の利用やこまめな換気を徹底して、生徒が安心して学校生活を送れるようにする。
組織運営	学校づくりのビジョン	・マニフェストや重点努力目標を徹底し、校長の学校づくりのビジョンを教職員間で共有・実践する。	B	校長の学校運営の方針を理解し、生徒のために教職員の意識統一を図る実践活動ができた。	今年度策定されたスクールミッション、スクールポリシーを教職員間で共有・実践する。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
組織運営	職員会議等	・職員会議や連絡会の資料を事前に配布して会議の効率化を図り、活発な意見交換を行う。	B	資料や議題の精選など職員会議の効率化が図れ、活発な意見交換を行うことができた。	さらなる効率化のために、事前に打ち合わせできる内容については、より効率的に検討・計画するように担当者に声かけをする。
教職員の働き方	勤務時間等	・教職員の勤務時間を守り、休憩時間を確保する。時間の有効活用とマネジメントの意識を向上させる。	A	テレワークの実施や金曜日のノー残業デーなど、勤務時間を意識し、効率よく活動することで、勤務時間外の労働は最小限に抑えられた。余裕を持った教育活動の実践がほぼできている。	可能な限り業務の均等化を図り、テレワークのさらなる活用や、教職員の心身のリフレッシュに努める。
	休暇の適切な活用	・年休の適切な活用を促進し、休めるときには休むという意識の定着を図る。	A	年休の取得など、休みやすい雰囲気づくりができており、適切な休暇を取得できている。	長期休業中など、休める時には休むという意識の定着のため、年休取得の適切な促進に努める。
研修	授業研修等	・研究授業をホームルーム関係1回、教科関係2回実施する。	B	基礎研修の研究授業では大洲高校本校の教諭も招いて評価会を開き、互いに研修を積むことができた。	Microsoft Teams等の学習支援ツールを生徒・職員共に有効に活用できるよう研修を深める。
図書	読書活動の充実	・年間10冊以上の貸出冊数を目指す。 A:10冊以上 B:7冊以上 C:4冊以上 D:2冊以上 E:1冊以上	C	貸出冊数は一人当たり5.5冊であった。今後も生徒の興味・関心を深める選書をした。	朝の読書の基本的な生活習慣の徹底と、魅力ある図書室づくりを目指し、より多くの生徒に読書させる。
保護者との連携	保護者との連携	・保護者の学校行事参加率90%以上を目指す。A:90%以上 B:80%以上 C:70%以上 D:60%以上 E:50%以上	C	コロナ禍で学校行事のほとんどが縮小開催になってしまったが、文化祭での共同展示やバザー等多くの保護者の協力を得て、実施することができた。	PTA理事会等において、十分な話し合いが行えるようにPTA会長との連携を密にして、学校行事をより充実させる。
		・保護者が教職員に気軽に相談できる雰囲気づくりをする。	B	必要な場面では、その都度連絡を取るよう努めた。	必要に応じて連絡を密に取り、より良い連携が取れるよう努める。
	保護者等への情報提供	・PTA月報及びホームページを活用して、学校の情報や活動の様子を随時提供する。A:HPアクセス数150以上 B:100以上 C:75以上 D:50以上 E:50未満	A	PTA月報で文書で伝えるとともに、今年度も学校生活の様子についてホームページで随時情報提供することができた。	PTA月報で文書で伝えるとともに、ホームページで学校の情報や活動の様子を随時提供する。
人権教育	人権教育の充実	・いじめ0%の明るい学校づくりを目指す。A:0件 B:1件 C:2件 D:3件 E:4件以上	A	年2回の困りごとアンケートの結果、今年度のいじめ発生件数は0件であったが、今後も継続して早期発見・情報共有に努めたい。	人を傷つける発言や、度を越した悪ふざけはその都度注意し、生徒に相手を慮る気持ちを養わせる。
		・生徒一人一人のニーズを正確に把握し、それに応じた教育を提供する。	B	秋のお茶会・ボランティア活動等の体験の中で、思いやりの心を育てることができた。	体験活動や学校行事の時だけでなく、普段の授業においても、思いやりの心を育てる。
環教境育	職場環境	・心身共にストレスなく健康的に働き、仕事に充実感を持てる環境づくりを目指す。	A	職員間のコミュニケーションは良好であると思われる。心身共にストレスの少ない職場環境ができている。	労いの言葉や感謝の言葉を声に出して伝えることで、やりがいを持って働きやすい職場環境を整える。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。